

講義名	ヒューマンリレーション論		
科目区分	学部専門科目		
担当教員	西尾 範博		
開講期・曜日・時限	後期 金曜日 3時限 / 後期 金曜日 4時限	授業形態	
履修開始年次	1年生	単位数	2
		備考	

主題と概要

この授業は、実際にどこかで起きた人間関係上の出来事を記したケースを取り上げ、毎回がディスカッションの連続となる。毎回、個人学習、グループディスカッション、クラスディスカッションというプロセスを経て、自己理解や他者理解を深めながら、人間関係に不可欠な知識とスキルを身につける。

到達目標

実際にどこかで起きた人間関係上の出来事を記したケースを使ったディスカッションを通じて以下の点を目標とする、
 自らの考えや感情を表現する勇氣と、ほかの人の考えや感情に耳を傾ける思いやりを身につけている。
 ケースという他人事についてディスカッションする過程で、自己理解や他者理解を深めながら、人間関係に不可欠な知識とスキルを身につけている。
 問題を発見する力、分析する力、解決する力を身につけている。
 ディスカッションに自ら進んで取り組むことができる。
 自ら目標や課題を設定し、それを成し遂げたり解決に結びつけることができる。
 現象や事実のなかに隠れている問題にやその要因を発見し、解決すべき課題を設定することができる。
 ディスカッションに際して、他者に働きかけ、協力を取りつけることができる。
 他者との意見の違いや立場の違いを理解し、協力してディスカッションを進めることができる。
 他者との間に相互に信頼し合う関係を築くことができる。
 8回にわたるレポート作成を通して、情報を多角的に分析し、現状を正確に把握することができる。
 8回にわたるディスカッションやレポート作成を通して、新しい視点と豊かな発想によって新しい価値を見いだすことができる。

提出課題

毎回の授業内容に基づく課題に関するレポート(1,100~1,200字)の作成を課題とする。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック

毎回課されたレポートは、学生一人ひとりに150字程度のコメントをつけて返却し、よりよいレポートの書き方や授業中のディスカッションをより充実したものになるよう指導する。

評価の基準

レポートによる評価(全体の40%)と授業への参加状況や貢献度(60%)をもとに評価する。期末試験は行わない。なお、授業に出席してもレポートを期限通りに提出しないことや授業に欠席してレポートだけを提出するのは認められない。いずれも欠席として扱われるので注意すること。

履修にあたっての注意・助言他

二週に一度のペースで一回あたり2コマ連続の開講。
 毎回がディスカッションの連続となるので、学生一人ひとりの積極的な参加と貢献が不可欠となる。そのためには体調を整えて出席し、熱心に取り組むようにすること。
 授業は展期の早いディスカッションの連続となるため、出席しても発言が少ない学生については授業への貢献度が低いとみなされ、成績評価の対象から外れる可能性もあるので、受講する学生はディスカッションに積極的に参加する用意が求められる。
 授業に出席しても受講態度が良くない学生やレポートが未提出の学生は出席回数に関係なく評価の対象外となる。

教科書	.使用しない。

プリント資料及び参考文献

授業中に随時ディスカッション用ケース(プリント資料)を配布し、参考文献を紹介する。

授業計画

1. 授業概要の説明
2. ケース・ディスカッションの試行
3. コミュニケーション・ゲーム(1)
4. コミュニケーション・ゲーム(2)
5. ケース1に関するディスカッション(1)
6. ケース1に関するディスカッション(2)
7. ケース2に関するディスカッション(1)
8. ケース2に関するディスカッション(2)
9. ケース3に関するディスカッション(1)
10. ケース3に関するディスカッション(2)
11. ケース4に関するディスカッション(1)
12. ケース4に関するディスカッション(2)
13. ケース5に関するディスカッション(1)
14. ケース5に関するディスカッション(2)
15. 全体のまとめ

授業形態(アクティブ・ラーニング)

<input type="checkbox"/> ア: PBL(課題解決型学習)
<input type="checkbox"/> イ: 反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
<input type="checkbox"/> ウ: ディスカッション、ディベート
<input type="checkbox"/> エ: グループワーク
<input type="checkbox"/> オ: プレゼンテーション
<input type="checkbox"/> カ: 実習、フィールドワーク

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業内容に基づく課題に関するレポート(作成4時間)をもって、復習とするとともに次回の授業に臨むための予習とする。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

毎回がディスカッションの連続となるこの授業では、学生の発言なくしては成立しない。数十名の学生の発言内容一つひとつを担当教員が簡潔に板書しながら進める、双方向性の非常に高い時間の連続となる。

実務経験の有無及び活用

備考

学生のディスカッションなくしては成立しない授業ゆえ、体調を整え、心身共に万全を期して出席すること。体調のよろしくない状態の学生には耐えられない1180分となる。